

演奏がおわって・・・

興奮の余韻が漂うロビーでお話をうかがいました。一部は後日お寄せいただきました。



お嬢様がバイオリンのパートに出演された藤井副校長先生(右)

「淡交フィルは音楽関係の仕事でなくても一生音楽を続けられるそのことは素晴らしいですね。年齢も仕事もそれぞれ違う中で、なかなか練習時間の確保は大変でしょうが・・・」

お子様がフルート、ビオラ奏者で出演され、ご自身もチェンバロを弾く後援会鈴木会長(左)は、「今回は妻と、子どもたち3人が出演します！」



「演奏会、好きなんです。いつも楽しませてくれます。今日は玄人向きの曲でしたね。」と、伊藤先生(左)。コンサートマスター田口氏(右)とは教師一年目に同じ学校に配属になって以来のお仲間だそうです。



「娘が在校時代から出演させていただき、育んでいただいている事が大変ありがたいです。」109期卒業生(ファゴット演奏者)保護者島山さま(右)より

会場出口手前には、在校生の出演者ほか両国生が笑顔でお見送り。
「ありがとうございました。♪」



バイオリン演奏者(高2)の保護者・橋本さまより

「正直、クラシックは苦手で開始後少しウトウトしました。

休憩後の『チャイコフスキー/ポーランド』は、あまり演奏される機会はないのですが、力強さを感じました。

アンコール後に、恒例の『校歌』が演奏されると、一般的な演奏会とは少し異なり、ステージと客席が一体となりました。

私は両国OBではありませんが、OB/OGの方々は色々な想いがこみあげる瞬間なのだろうと思いました。

会場スタッフには在校生も当たり、会場をあとにするときはあちこちで「ありがとうございました」の声が響き、気持ちよく帰路につきました。

在校生の保護者の皆さま・・・演奏には、中学/高校生も参加して頑張っています。今回は、6月16日に演奏が予定されています。

一度足を運んでみてはいかがでしょうか？ お勧めいたします。」

第五十二回定期演奏会 「名曲を訪ねて」

◇ 六月十六日(日) 午後二時開演

◇ 文京シビックホールにて

ベートーベン 「運命」

シューベルト 「未完成」

他

翌日、インターネットラジオ/OTTAVA 生放送で、演奏会の様子を投稿した方のメッセージが紹介されました。「卒業して随分たってもフィルでの演奏をきっかけに皆で集まり、最後にシンフォニックな校歌を会場と一緒に歌うなんて、なんて素敵なことでしょう」

東京都立両国高等学校・附属中学校 後援会